

1985. 3. 22

九州大学 大型計算機センターニュース

No. 311

福岡市東区箱崎6丁目10番1号
九州大学大型計算機センター
広報教育室(TEL.092-641-1101)
内線 2505

目 次

- 1. センター利用講習会について 1
- 2. INSPEC収録雑誌データベースの更新について 2
- 3. 「熱物性値プログラム・パッケージPROPATH」の
バージョンアップについて 2
- 4. 昭和60年度プログラムライブラリ開発課題について 3

1. センター利用講習会について

標記講習会を開催します。受講希望者は、共同利用掛（電（内）2505）にお申込みください。
なお、募集定員に達し次第、締切らせていただきます。

記

- ・期 日 4月17日（水）
- ・対 象 センターを初めて利用する方
- ・募集人員 60名
- ・内 容 各種申請手続きの説明，センター計算機システム利用方法，オープン機器の概要
- ・会 場 九州大学大型計算機センター 多目的講習室（3階）
- ・テキスト センターで用意
- ・時 間 割

10:00

12:00 13:30

16:00

17日（水）

各種申請 手続の説明	センター計算機 システム利用方法	昼 休 み	センター計算機シ ステム利用方法	オープン機器の概要及 びオープン機器見学
---------------	---------------------	-------------	---------------------	-------------------------

- ・ 申込み期限 4月13日(土)
- ・ 申込み先 九州大学大型計算機センター
(電(内)2505)

2. INSPEC収録雑誌データベースの更新について

3月5日にINSPEC収録雑誌データベースINSPEC-Jを1985年版に更新しました。
収録雑誌数は4,712で、1984年版に比べて242増えています。

参考文献

1. INSPEC-Jの検索サービス開始について、九大大型計算機センターニュース№219。
(データベース室 電(内)2510)

3. 「熱物性値プログラム・パッケージPROPATH」のバージョンアップについて

標記パッケージを昭和60年4月2日付で、第1.1版から第2.1版にバージョンアップします。
PROPATH第2.1版では、新たな物質として、空気、二酸化炭素およびメタンの関数が追加され、
第1.1版に収録された物質についても関数の数が若干増えます。また、第1.1版では圧力と温度の
単位はそれぞれバールおよびセルシウス度に限定されていましたが、第2.1版では圧力の単位パス
カルおよび温度の単位ケルビン度を使用できるようになりました。それに伴い圧力と温度の単位を
ユーザーが指定する整数型コモン変数KPAが追加されますので、ユーザーはプログラムの先頭に
以下の2行を追加してください。

```
CHARACTER FLUID*16
COMMON/BLK/FLUID
COMMON/UNIT/KPA ..... 追加される行
FLUID = '物質名'
KPA = i ..... /
```

KPAの値*i*と、圧力および温度の単位との対応を下の表に示します。したがって*i*=1とすれば、
第1.1版を使用していたユーザーのプログラムはそのまま使用できます。なお、第1水準異常終了
時の関数値は -1.0×10^6 から -1.0×10^0 へ、第2、第3、第4水準異常終了時の関数値は
 -1.0×10^3 から -1.0×10^2 へ変更されます。詳細は追って広報[1]でお知らせします。

KPAと圧力と温度の単位の対応

KPA	圧力の単位	温度の単位
0	Pa	K
1	bar	℃
2	bar	K
3	Pa	℃
その他	Pa	K

参考文献

1. 伊藤, 黒木, 茂地, 高田, 本田, 増岡, 松本, 安田, 山下 PROPAT: 熱物性値プログラム・パッケージ, 九大大型計算機センター広報, 18, 3, 1985 (5月末刊行予定)。

(ライブラリ室 電(内)2523)

4. 昭和60年度プログラムライブラリ開発課題について

本年度分として採用された開発課題は, 下表のとおりです。

開発番号	課 題 名	開発者(所属)	開発期間	開発時間	新規/継続
14.1	ADL システムの機能拡張	長 沢 勲 古 川 由美子 (九大・工)	1985. 4. 1) 1985. 8. 31	300 分	継 続
14.2	熱物性値機械計算汎用プログラムパッケージの開発	伊 藤 猛 宏 黒 木 虎 人 高 田 保 之 (九大・工) 加 藤 泰 生 宮 本 政 英 (山口大) 茂 地 徹 (長崎大) 本 田 知 宏 山 下 宏 幸 (福岡大) 増 岡 隆 士 安 田 嘉 明 (九工大) 松 本 健 一 (久留米高専)	1985. 4. 1) 1986. 3. 31	180 分	継 続
14.3	ユーザ定義文字のNLP出力支援プログラムの開発	国 宗 真 (福女大) 吉 田 和 幸 (大分大・工)	1985. 4. 1) 1986. 3. 31	300 分	継 続

開発番号	課 題 名	開発者(所属)	開発期間	開発時間	新規/継続
14.4	日本語 SNOBOL4 の整備	牛 島 和 夫 (九大・工) 吉 田 和 幸 (大分大・工)	1985. 4. 1 } 1986. 3. 31	60 分	継 続
14.5	日本語推敲支援ツールの高速化 と拡張	牛 島 和 夫 尹 志 熙 石 田 真 美 松 尾 篤 弥 荒 木 啓 二 郎 高 木 利 久 (九大・工)	1985. 4. 1 } 1986. 3. 31	180 分	継 続
14.6	IPSP ルーチンによるリモート センシングデータ視覚判読分析 のためのプログラム	梅干野 晁 加 藤 倍 敬 (九大・工)	1985. 4. 1 } 1986. 3. 31	420 分	継 続
14.7	Prosid ユーザのための支援ツ ールの開発	後 藤 恵 之 輔 森 正 寿 (長崎大・工)	1985. 4. 1 } 1986. 3. 31	300 分	継 続
14.8	3次元固有関数系の節曲面の特 異点探索アルゴリズムの開発	大 脇 信 一 (熊大・教養)	1985. 4. 1 } 1986. 3. 31	180 分	新 規

(ライブラリ室 電(内)2523)